

ほんかいだん しょうにんさま 本海壇(聖人様)と相撲

道の駅裏の田沢川（以前は橋があった）を渡り、少し上った段丘上に野沢の人たちが「聖人様」と呼ぶ「本海壇」があります。そこにはこんな話が伝わっています。

野沢宿がほぼ出来上がりつつあるころ、本海という行人（修験者）がやってきて、高灯籠を掲げ祈禱をしていたら、その火が漏れて宿場が全焼してしまいました。その後、宿場は火災が絶えないため、陰陽師に占ってもらおうと本海の恨みであるということで、宿場では毎年7月15・16日の夜、家ごとに高さ6間の高灯籠を掲げて本海の靈魂を慰めたそうです。さらに禍転じて吉祥にするため本海を火防鎮火の聖人として壇を築いて「お聖人様」として崇めました。

このように宿場をあげて本海の靈魂を慰めたり崇めたりしたのは、宿場の人々が本海に対してむごい仕打ちをしたことを悔いてのことではないでしょうか。

「旧記書」（喜島屋山本定平著）によると明和6年（1769）ころ、田沢川火防聖人の塚は毎年8月18日にまつりや相撲、狂言、太神楽、念仏踊が行われ、近村隣郷の人々が集い、大変なにぎわいであったようです。いつのころからか高灯籠を掲げることはなくなり、奉納相撲だけが昭和30年代の初めごろまで行われていました。昭和初年ごろは触れ太鼓や新町の聖人様入口に組まれた櫓太鼓が打ち鳴らされ、大勢の人々が集い、狭い本海壇周辺に出店も出て大にぎわいであったそうです。当時の相撲の様子や化粧まわしの写真が「ふるさと自慢館」に掲示されています。参考文献＝『新編会津風土記』、『西会津史談 第7号』（根本一「原町お聖人様」）



▲本海の墓石



道の駅にしあいづ

▼相撲が行われた場所



暖かくなってきました。春です。暖かくなるにつれ、何だかやる気も増してきているような気がするの私だけでしょうか。西会津の春は、花や山開きなど、イベントが盛りだくさんです。もちろん、私は遊びに（取材に）行きます。皆さんもぜひ、足を運んでみてはいかがですか。

仕事は楽しく 長谷川祐一

編集後記



▲ローレン先生と一緒に英語を楽しむゆり組の児童たち

今月の表紙は、こゆりこども園で行われた英会話教室から。こゆりこども園ではゆり組さんから英会話教室を行うようになったため、より小さなうちから英語に親しめるようになりました。

今月の表紙